

## 第21回 市立奈良病院運営市民会議議事録

平成26年11月21日

## 第21回市立奈良病院運営市民会議議事録

会議の概要は次のとおりでした。

日 時：平成26年11月21日（金）午後2時00分から午後4時00分

場 所：市立奈良病院 別館第5会議室

出席者：市立奈良病院運営市民会議委員 8名

会長	谷 掛 駿 介	(奈良市医師会会長)
	島 本 太香子	(奈良大学教養学部教授)
	中 川 雅 晴	(監査法人トーマツ奈良事務所長)
	渡 邊 三 平	(市民代表)
	新 谷 絹 代	(奈良市国民健康保険運営協議会会長)
	河 瀬 喜代子	(高齢者住宅ベルアンジュ奈良館長)
	白 須 洋 子	(NPO法人子どもの人権総合研究所理事長)
	栗 本 恭 子	(ウィメンズ・フューチャー・センター代表)

事務局（庶務） 9名

	堀 川 市民生活部長
	谷 奥 市民生活部次長
	菅 看護専門学校長
	福 井 市民生活部参事医療政策課長事務取扱
	森 看護専門学校事務長
	濱 田 医療政策課主幹
	松 原 医療政策課長補佐
	中 村 医療政策課主任
	石 田 医療政策課係員

欠席者：市立奈良病院運営市民会議委員 6名

	森 本 恵 子	(奈良女子大学生生活環境学部教授)
	瀬 川 雅 教	(奈良県病院協会理事)
	岩 井 誠	(奈良県医師会理事)
	千 葉 喜 代 子	(市民代表)
	高 橋 裕 子	(市民代表)
	中 井 弘 司	(奈良市社会福祉協議会副会長)

## 開始

(谷奥市民生活部次長)

- ・開会宣言

## 会長挨拶

(谷掛会長)

## 議事公開

傍聴者なし

## 議事

- (1) 市立奈良病院のグランドオープンについて
- (2) 平成 25 年度決算等について
- (3) 平成 26 年度事業進捗状況について
- (4) その他

### ○市立奈良病院のグランドオープンについて

(福井参事)

平成 16 年 12 月に国立病院機構奈良病院の移譲を受け、開院した市立奈良病院は、建物・設備の老朽化あるいは狭隘化によって、平成 23 年 2 月に建替え工事に着手、24 年 11 月に第 1 期工事・本館部分が完成し、翌 25 年 1 月から新病院本館で診療を開始した。

平成 26 年 1 月には第 2 期工事・別館部分が完成し、2 月から病院の正面玄関として供用を開始しました。引き続き第 3 期工事として行った外構・駐車場整備工事が 6 月末に完成、これにより全ての工事が完了し、7 月 1 日にグランドオープンした。

#### 1 第 3 期工事の概要

- (1) 駐車場設備 269 台 (乗用車 211 台、軽自動車 53 台、身障者用 5 台)

(内訳)

- ・西側駐車場 (患者用) …231 台

(乗用車 173 台、軽自動車 53 台、身障者用 5 台)

- ・東側駐車場 (関係者用等) …38 台 (乗用車 38 台)

\* 駐車場スペースに 3 台分のタクシー待機場所を設け、待機タクシーについては禁煙車限定。

\* 駐車場入口は、一般車両とは別に救急車・送迎車車両専用レーンを設け、3 レーンとし、緊急時の迅速性、効率アップを図った。

(2) 歩道整備

病院西側の歩道幅を 1.2mから 4mに拡幅  
延長約 208m、カラー舗装

(3) 外構整備

フェンス、植栽等

2 建設費用 総事業費 約 65 億 7,500 万円

新病院の建設事業費は、国からの交付税・交付金と地域医療振興協会の負担で賅っている。

\*医療機器費用 約 28 億円 地域医療振興協会負担

3 事業スケジュール

平成 23 年 2 月 1 日	市立奈良病院建設工事着手
平成 24 年 11 月 30 日	本館完成 (第 1 期工事)
平成 25 年 1 月 8 日	新病院・本館での外来診療開始
平成 26 年 1 月 31 日	別館完成 (第 2 期工事)
平成 26 年 6 月 30 日	外構・駐車場設備工事完成 (第 3 期工事)

4 新病院の建物等の概要 \* [ ] は旧建物

本館 (外来診療・病棟) : 地上 5 階、RC 造、免震構造

別館 (リハビリ・その他) : 地上 2 階、RC 造、耐震構造

[外来診療棟 : 地上 3 階、病棟 : 地上 6 階、地下 1 階]

・延床面積	28,699 m <sup>2</sup>	[15,027 m <sup>2</sup> ]
・病床数	350 床	[300 床]
・1 床当たりの病室面積	8.0 m <sup>2</sup>	[4.3 m <sup>2</sup> ]
・患者用駐車場	231 台	[159 台]

5 新病院医療機能強化の主な内容

①病床数を 300 床から 350 床に増床

- ・ ICU・CCU を 8 床新設  
…救急及び重症患者等への集中治療が可能になった。
- ・緩和ケア病床を 10 床新設  
…がん医療の強化を図った。
- ・開放病床を 20 床確保、開放病床登録医室を新設

- …地域医療連携の推進を図った。
- ・産科病床 6 床増床、NICU 後方病床 6 床新設

#### ②救急部門の機能強化

- ・救急部門の大幅なスペース拡大。(86.5 m<sup>2</sup>から 481 m<sup>2</sup>に)
- ・救急車取扱い件数が、平成 17 年度 1,650 件から 25 年度 3,357 件と大幅に増加。救急車受入率が平成 17 年度 81.2%から 25 年度 92.1%に向上した。
- ・救急部門と手術室及び ICU・CCU への救急への救急専用エレベーターを設置。…迅速な患者搬送や処置が可能となった。
- ・手術室を 5 室から 8 室に増設。…手術件数が増え、緊急対応が可能に。
- ・初療室を 1 床から 3 床に、救急処置用ベッドを 2 床から 5 床に増床し、救急専用の診察室 4 室を確保。

#### ③災害医療への対応

- ・新病院の構造には、本館は免震構造、別館は耐震構造を採用。
- ・防災（備蓄）倉庫を確保。
- ・受水槽を 90 t から 120 t へ増量。
- ・自家発電 72 時間可能。
- ・駐車場スペースは災害時における避難場所及びトリアージスペースとして利用可能。

#### ④病棟部門の機能強化

- ・ 8 床室、6 床室を廃止。個室を 40 床から 96 床へ。個室率 13.3%から 27.4%へ拡充。
- ・ 1 床当たりの病室面積を 4.3 m<sup>2</sup>から 8.0 m<sup>2</sup>に拡充。…ベッドサイドに十分なスペースを確保。

#### ⑤その他

- ・カフェ(喫茶・軽食)を新設。
- ・コンビニ内に ATM を設置。…患者・家族のアメニティの充実を図る。

#### <質疑応答>

(渡邊委員) 救急車受入率とは？

(福井参事) 資料 11P、救急車取扱い件数が平成 25 年度 3,357 件、1 日平均 9.2 件。救急車拒否率が 7.9%なので 92.1%は救急車を受け入れている、拒否してないという状況。

(渡邊委員) 要請があつて受け入れるか、拒否するかという事か？

(福井参事)

電話があつてここで受けられるかどうかである。

(河瀬委員)

入つてすぐゆったり感を感じた。実際スペースもかなり広がつて患者様のアメニティとして素晴らしい。日本だけでなく海外から治療方法もわからない患者が来る時代に、初療室を増やしたのは立派。ただ、救急外来は十分な検査ができないことが多いので手術室についても分けられたら、尚よかつたかもしれない。

(濱田主幹)

説明させていただくと、救急の患者はまず初療室1～3床に運ばれて応急処置及び検査を行い、手術・ICUが必要となると、専用のエレベーターで2階の手術部門・集中管理部門に直通で向かうようになっている。緊急を要する患者の動線を短くして時間短縮を図っている。

(河瀬委員)

コストやスペースの問題で日本ではなかなか実現できないことを奈良の市立病院でやれたのは本当に凄い事。

(谷掛会長)

身障者用の駐車場の件。市内の商業施設でも10台ほどは用意されているのに、もともと障がい者が多いと思われる市立病院に5台分しかないその根拠を知りたい。遠い場所から車椅子を押してくる姿を見受ける。もう少し増やすのは難しい事ではないと思うが。

(福井参事)

5台では少ないという声は確かにある。当面は人を配してできるだけ近い場所に誘導するようお願いしている。スペース拡大する方向でこれからまた病院側と話していく。

## ○平成25年度決算等

(福井参事)

・大きな変更点→免税事業者から課税事業者へ。

### 収益的収支

#### 1 収益的収入

##### (1) 収益的収入の決算額

病院事業収益	572,360,064 円
内訳	
医業収益	67,515,000 円
医業外収益	399,568,883 円
看護師養成事業収益	56,237,181 円

	特別利益	49,039,000 円
(2)	医業収益の内訳	
①	他会計負担金	67,515,000 円
	⇒小児医療病床や小児救急提供病院への特別交付税分	
(3)	医業外収益 399,497,383 円の内訳	
①	受取利息	15,916 円
②	補助金	
	国庫補助金	25,358,000 円、県補助金 32,798,000 円
	合計	58,156,000 円
③	他会計補助金の一般会計補助金	
	病院事業担当職員の人件費・事務費等	28,622,858 円
④	他会計負担金の一般会計負担金	287,840,722 円
⑤	その他医業外収益	24,861,887 円
	⇒地域医療振興協会負担金等	
(4)	看護師養成事業収益	56,237,181 円
(5)	特別利益	49,039,000 円
	⇒一般会計補助金（一時借入金元金返済補填分）	
2.	費用	
(1)	病院事業費用	687,176,717 円
	内訳	
	医業費用	465,368,725 円
	医業外費用	13,640,419 円
	看護師養成事業費用	56,237,181 円
	特別損失	151,930,392 円
(2)	医業費用 465,368,725 円の内訳	
	給与費（市の病院事業課職員の給与）	
		20,844,546 円
	経費	418,035,714 円
	減価償却費	26,488,465 円
(3)	医業外費用	13,640,419 円
	内訳は、企業債の利息と一時借入金の利息	
(4)	看護師養成事業費用	56,237,181 円
(5)	特別損失	151,930,392 円
	⇒新病院建設事業での旧病院の建物・機器等の固定資産の除却損	
3	資本的収入	
	資本的収入の決算額	2,146,203,016 円
	内訳	
	企業債	2,121,300,000 円
	他会計負担金	24,903,016 円

#### 4 資本的支出

資本的支出の決算額	3,867,294,399 円
内訳 建設改良費	3,829,257,000 円
⇒市立奈良病院新築その他工事関係	
企業債償還	38,037,399 円

#### 5. 損益計算書

医業収益	67,515,000 円
医業費用	465,368,725 円
医業損失	397,853,725 円

医業費用の経費にあたる収益が医業外収益の(2)補助金から(5)その他医業外収益に含まれていることと、減価償却費の補填がないことによるもの。

医業外収益	399,497,383 円
医業外費用	13,640,419 円
看護師養成事業収益	56,237,181 円
看護師養成事業費用	56,237,181 円
経常損失	11,996,761 円
当年度純損失	114,888,153 円
前年度繰越欠損金	391,193,767 円
当年度未処理欠損金	506,081,920 円

その他、P7に剰余金計算書、P8欠損金処理計算書、P9～10は貸借対照表、P25以降の附属書類等をご清覧いただきますようお願いする。

#### ○市立奈良病院の平成25年度決算等

##### 1 損益計算書

(1) 事業収益 8,703,730,000 円

(2) 事業費用

①材料費 2,289,593,000 円

材料比率は25年度26.31%で、前年度に対して3.06%減。

②給与費 4,612,102,000 円

職員の増員により、前年度より609,863,000円増だが  
人件費比率は、前年度より0.35%減。

③委託経費 412,013,000 円

内訳は、検査、給食、寝具等の委託費

④設備関係経費は980,367,000円



内訳は、機械賃借料、修繕費等

⑤ 経費・その他は 654,290,000 円

内訳は光熱水費、消耗品費、通信運搬費等

以上、事業費用の合計 8,948,367,000 円

差引事業利益が 244,637,000 円の赤字

(3) 事業外収益

代診収入や国からの交付税相当分、県からの補助金 658,265,000 円

(4) 事業外費用

借入金の支払利息分 73,591,000 円

以上、差引、経常利益が 340,037,000 円の黒字

なお、P 7 の貸借対照表についてはご清覧をお願いします。

<質疑応答>

(栗本委員)

奈良市病院事業損益計算書には、市立病院の数字は入っているのか？

(松原補佐)

市立奈良病院は利用料金制を採用しているので、病院事業会計には診療報酬とかは全く含んでない。市立奈良病院自体のものとして、損益計算書が出ている。病院事業会計には建物とか減価償却分とか入っており、収入として補助金や交付税相当分とか入ってくる。支出は、運営交付金などである。病院の方には、奈良市から運営交付金が入ってくる形になっている。

(栗本委員)

以前の会議で数字上は赤字だが実際は黒字との説明があったが、今回はどうなのか？両方赤字なのか？

(松原補佐)

減価償却分が費用の中で大きな部分を占めている。その分については、現金の支出はないが、積み重なっていくので、病院事業会計は大きな赤字になっている。しかし、施設等の建て替えの際は、100%で病院企業債を借りるので、そういった意味では、キャッシュフロー的には赤字ではない状態だ。病院については事業外収益・費用を合わせて3億の黒字である。

(渡邊委員)

決算書P 6 に看護師養成費で3億 8500 万と大きな数字があるが、何か？

(中村主任)

これは医業外収益と費用、看護師養成費の収益と費用を差し引きした数字。看護師養成費単独の数字ではない。

(渡邊委員)

表示が非常に解かりにくい。もう一点、P27の医業費用の内訳で交付金とあるが、病院への交付金か？

(松原補佐)

これが先程説明した普通交付税、特別交付税相当分と補助金である。自治体病院なので不採算医療など、救急とか、周産期医療等で自治体病院としての役割を担っていかなければならないということで交付税が入ってくるので、病院事業運営に関して、政策的医療であるので、病院に交付して運営に充てている。

(渡邊委員)

それは事業外収益になるのですね？

(松原補佐)

そうです。事業外収益6億5千万に含まれる。

(中川委員)

資料P7の医業収益計が前年度と比較して12億円増の要因は？

(松原補佐)

資料P11の入院患者及び外来患者の年度別推移をみると、建設移転工事により23年度、24年度の入院患者は人数を抑えていた。25年1月から4階西病棟は除いて、全て開棟したため、入院患者が81,276名から90,774名に増加した。また、外来患者も25年度に1万人増えているので、収益の増加になった。

(新谷委員)

患者数が増えて収益が増加しても補助金がなければ単年では赤字ですね。補助金はいつまでももらえるものか？

(中村主任)

補助金も交付税もなくなるものではないと理解している。

## ○平成26年度事業進捗状況

(福井参事)

### ・市立奈良病院医業未収金回収業務について

平成23年度までの市立奈良病院医業未収金回収業務について、公募型プロポーザル方式により、平成26年1月、2月に審査委員会を開催し、さくら法律事務所を第1位の委託候補者として選定し、平成26年5月に委託契約を締結した。

- ・ 委託債権件数 612件
- ・ 委託債権総額 41,644,930円
- ・ 委託期間 平成28年3月31日まで

## 委託内容

受託通知書送付、納付催告及び納付交渉、分割納付誓約の締結及び分割納付の履行管理、収納した受託債権の奈良市への納入、所在不明状態にある債務者の最終住所地までの調査など

- ・ 委託料

受託者が回収した金額に成功報酬率20%を乗じた成功報酬及び回収不能報告書作成額1件当たり3,000円、少額事案については1,000円に、消費税及び地方消費税相当額を加えた金額を受託者に支払うものとする。

- ・ 予算額

平成26年度予算額 450万円

- ・ 現在の状況

文書送付	未収額 10万円以上	26年6月に 100件
	未収額 3~10万円	26年7月に 100件
回収実績 (26年10月末まで)		
	分割	31件 1,386,417円
	一括	27件 2,469,369円
	合計	3,855,786円

- ・ 24年以降は利用料金制…地域医療振興協会の指定管理者が回収。

## ○市立奈良病院の26年度事業進捗状況

### <実施済の事業>

(1) 新病院整備事業としては、3期工事が竣工し、7月にグランドオープン。

(2) 診療機能の強化

① 医師等の増員

- ・ 医師

循環器内科3名をはじめ、小児科2名、神経内科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科、感染制御内科、緩和ケアに各1名。

26年11月時点での常勤医師数が115名、非常勤が38名、合計153名。

- ・ 看護師

年度当初に47名を採用。非常勤を含めて319名。

- ・ 医療技術職

薬剤師3名をはじめとするコメディカルの職員13名を採用

## ② 4階西病棟の開棟

看護師の確保に伴い、4月から一般病棟として、4階西病棟を開棟。

## ③ 地域医療連携の推進

4月から地域医療連携室に看護師1名を増員。

## ④ 地域がん診療連携拠点病院の機能強化

4月から毎週金曜日に緩和ケア外来の診療を開始。

がん相談支援センター室を設置。10月までに486件の相談。退院後の在宅療養の場など、(看取り、ホスピス)。

## ⑤ 臨床研修体制の機能強化

臨床研修医の定数増に伴う臨床研修センターの指導体制の強化。

新たに設置されたスキルラボ室を効果的にあらゆる職種の研修の場として8月から運用を開始。

## <継続中の事業>

### ① 診療機能の強化

救急対応充実のため総合診療内科医、また現在非常勤の血液内科、呼吸器内科医を常勤化して入院患者に対応することなど、この3つの診療科で医師の増員を図る。

### ② 地域医療連携の推進

地域の医療機関との連携体制を強化するため、地域医療連携室と院内に設置した地域連携推進委員会を中心に病診連携・病病連携を促進する具体的な方策の検討を継続して行う。また運用がはじまった開放病床がより活用されるよう取り組む。

### ③ がん診療の充実

「地域がん診療連携拠点病院」として地域のがん医療の向上に貢献していくとともに、18床ある外来化学療法センターと緩和ケア病床の更なる充実を図る。

### ④ 災害拠点病院としての機能強化

平成21年11月に災害拠点病院に指定されたことを受け、市立病院として大規模災害発生時に十分な対応ができるよう院内の体制を強化整備。今年度も2月に訓練実施を予定。

### ⑤ エイズ診療病院としての機能強化

奈良県と協議を行い、北和地域の拠点として近隣医療機関と連携したエイズ診療体制の構築を図る。

(2) 開校2年目となる奈良市立看護専門学校の学生教育にかかる部門の運営

(3) 市立診療所の運営

市立柳生診療所・田原診療所は平成20年度から、月ヶ瀬診療所・都祁診療所は平成22年度から市立奈良病院の指定管理者である地域医療振興協会が、市立奈良病院と4診療所を一括して指定管理。そのため、市立奈良病院から4診療所への医師・看護師等の診療支援など、市立奈良病院と連携した体制を行っている。

質疑応答

(新谷委員)

ソフトの部分で、ここで話したらいいかわからないが、3月の市立奈良病院に入院したが担当の看護師さんというのではなく、1週間入院して、看護師さんが14人変わった。看護師さんにも差があり、丁寧な方もいれば、タメ口の方もいる。確認で連絡を取りたい時にも、なかなか看護師が来てくれない。誰が担当なのかがわからず、近くの看護師に話しかけても、「担当でない。」ということで。本当にこれでいいのかなと少し感じた。そういう方式をとっていることで、その人の病状をみんなが把握し、その人がいないとわからないと言うよりはいいとは思いますが。担当が違ったら自分には関係がないと言うのにはがっかりした。

(濱田主幹)

看護師の受け持ちは、昔は患者個別受け持ち方式だったが、今はほとんどの場合がチームナーシングということで、引き継ぎながらその人のことを見守っていくという制度になっている。病院に確認したところ、医師、スタッフをはじめ、研修には力を入れているということであった。特に看護師さんの受け持ち状況、そしてチームナーシングなので、この人のことは知らないという意味ではなく、原則で申し送りをしていると思う。そういうことがあったということを病院に伝えて改善を要求していきたいと思う。

(新谷委員)

本当に忙しくされているのはよくわかった。電子カルテのせいもあるのではないかと。慣れない看護師さんがいて、自分がしてきたことを申し送りするのに入力に一所懸命で、その分、対話が少しおろそかになっていないかなみたいな、本当は患者さんと向き合わないといけないのに、パソコンと向き合っている時間が長いなとすごく思った。

(濱田主幹)

電子カルテは確かに苦手な方がおられるし、言い訳だがちょうど時期が3月ということで、おそらく引き継ぎとかがあったのかもしれない。そういうご意見があったことは、病院に伝えてさせていただく。

(谷掛会長)

私も新しい病院になってから入院したことがあるが、今、言われたように私が勤務医として勤めていた時代とは医療、看護が全然違う形で、チーム医療で、どんどん、薬剤師さん、看護師さん、ドクターが次から次へとやってきて、アメリカの医療はこういうことだと聞いていたが、まったくそのとおりになっている。隙がないように見えるが、コミュニケーションというか、患者さんの思う気持ちなど患者さんの方に不安があったりやレベル差などいろいろなことが目についたりするが、要求は高まる一方ではあるが、できるだけことはしていただきたい。

次に災害拠点病院としての機能強化は必要なことではあるが、地域として、奈良盆地東縁の地震は、南海トラフ以上であるといわれているが、1000人以上の死者が出るような状態では、とても市立奈良病院、1病院では対応できない。多数押しかけると病院の機能を果たすことができない。こういう訓練等においては地域の病院、診療所と連携されて、医師会としても協力できることがあればやっていきたい。

(栗本委員)

開放病床が20床確保されているということだが、どんな感じで利用されているのか。もう一つとしては、診療機能の強化であるとか臨床医の取り組みのことが書かれていて、こういうところを一所懸命やっていると市民の医療につながって大切なところだと思うが。これはここで意見があったということで聞いてほしいのだが、看護師は女性がほとんどで医師でも女性が増えていると思う。医学部でも半分ぐらいあったりとか、産婦人科も半分以上が女性であり、女性の場合、出産があったり、いろいろなことがあり男性と違う部分があるので、いっしょに働きやすい環境ということを考えていただいて、医療スタッフを充実させていくという基本であると思っているところである。ここは隣が保育所ですし、そちらに預けたりできるのか。

(濱田主幹)

この病院の隣に保育園が2つある。1つは、院内保育園でこのお子さんを預けるということになっている。この病院の管理者が管理されている保育園が1つある。もう1つは、病気や病気の回復期の子どもさんを預かる保育園が併設されていて、奈良市から補助金を出している。女性スタッフに長く勤めていただくということで、その2つの保育園を敷地内に整えている。

はじめの開放病床の件ですが、登録医は24名おられるが、実際の稼働は4件であり、これから広げていくように医師会と調整していくと病院から聞いている。

(栗本委員)

医師会としては、地域連携や開放病床に対してどう思われているのか。

(谷掛会長)

個人的な意見ではあるが、医師会としては、連携をもって進めていきたいと思っている。ここでやっておられる病院の先生方、あるいは診療所の先生方も同じ考えだと思うし、私も利用したいと思っている。

(栗本委員)

実際に使いづらいなと思うところや使えないなと思うところや、もっとこういうふうにしてくれたらいいなという意見はあがってきているか。

(谷掛会長)

まだ、そのようなことは聞いていないが、私も患者になったのでよくわかるので、一番大事なのは患者さんですので、医師会やこのスタッフともよく話し合っていていきたい。

(栗本委員)

奈良市医師会全体として、どちらかという地域連携に前向きだという方が多いのか、よくわからないという方が多いのか、あちはあっち、こっちはこっちと思っているのか、そのあたりはどうでしょうか。

(谷掛会長)

東部の先生で熱心な先生方がおられて、実際に利用された先生もおられる。アンケート調査もやっていないので、具体的に言えないが、反対だとかそういうのは少ないと思う。医師会としても進めて行きたいと思う。

(河瀬委員)

元現場にいたものの感想として、先生方もこういう連携を持つことは心強いと思う。それと今、医療機器が非常に発達しているので、各個人でそれを入れようと思うと、とてもじゃないと思う。だから、うまく利用しておられる先生方は、うまく利用されているし、まだまだ市民の中に、利用された方はわかっていると思うが、まだまだPRが足りないのではないかという気がする。これでやっぱり、検査とかいろいろな医療機器を使ってとかで、助られた患者さんもたくさんおられる。だから、私もその方を進めているが、先生方の中には、設備やいろいろなものが違うし、職員も違うので、なじみがないし、入りにくい部分があるのも、確かだと思う。やっぱり連携をやってはみたものの、なかなか職員も「どこの先生」というようなものであるし、先生も詰め所に入って来られても誰に言っているかわからないというような面も多々あるのではないかと思うので、もっと

PRをするとともに、来られた先生には使いやすいようにやはり職員がサポートして行くことが、普及の一つになるのではないかと思う。

#### その他の事項

##### ○患者満足度調査について

(福井参事)

患者満足度調査について、前々回の運営市民会議におきまして、予算、決算など財政的な面ばかりでなく、「もう少し市民の目線での市の病院の改善とか要望とか、議論ができないものか」というご提言があった。この点を踏まえ、昨年度は新病院での診療開始のために実施できなかったが、患者満足度調査を本年は、市立奈良病院・医療サービス向上委員会が実施したので、報告させていただく。

しかしながら、この調査の結果については、現在病院の方で集計し分析中とのことである。今回は、お手元のアンケート調査表をご覧いただき、設問内容のご紹介のみとなるので、ご了承をお願い申しあげる。

さて、患者満足度調査は、外来患者に対しては、平成26年9月16～18日の3日間、各診察科の窓口で受け付けの際に調査票をお渡しし記入をお願いし、442件の回答があった。

入院患者に対しましては、9月16日～10月10日までの間、退院の前日に調査票をお渡しし記入をお願いし、324件の回答があった。

まず、左上に外来患者用と書いてあるアンケート調査表を参照いただきたい。設問の中身については、病院の総合評価、医師及び看護師のケア、病院スタッフの対応、待ち時間、院内の設備の項目について調査した。詳細についてはご清覧をいただきたい。

また、入院患者用と書いてあるアンケート調査表をご覧いただきたいと思います。入院患者の調査では、医師及び看護師のケア、病棟の環境、入院中の対応、退院後のこと、病院の総合評価、退院後のケアの理解について調査しました。詳細についてはご清覧願います。

なお、この調査は病院に対して患者の満足度を測る1つの指標であり、調査結果につきましては、集計、分析がまとまり次第、報告させていただきたいと思うので、よろしくようお願い申し上げます。

##### ○看護専門学校の状況

(森事務長)

前回の会議以降の市立看護専門学校の状況について、ご説明させていただきます。

まず、本年4月に入学した第2期生の戴帽式を10月30日に開催した。



次に入学試験の関係で、夏場に学校説明会を3回開催するとともに、県内の高校20校余りを訪問し、近畿圏約160校に募集要項等を郵送した。先般11月9日(日)に推薦入学試験を実施、17人が受験し、15人の合格を発表した。

他方、一般入学試験につきましては、年明けの1月25日(日)を予定である。

## 質疑応答

(河瀬委員)

募集要項等を配布するだけなのか。説明する時には私は考えるのは、医療関係、看護師はこんなんだ、このように大変だけれども、こんなすばらしいこともあるよというような、そういう直接伝えられるような、書いたものだけでなく、直接伝えられるような、人の為になるし、やってみようという気持ちにさせるような方法も考えられるのではないか。

(森事務長)

学校説明会においては、2年生までしかいないが、入った学生の体験談なりを発表する機会は設けている。

(河瀬委員)

そうですか。すばらしいと思う。ぜひぜひ進めていただきたいと思う。

(菅校長)

看護師を希望される方に来てほしいということで、学校としては、学校説明会で、夏休み期間中と10月に1回、その中で在校生からのメッセージとかそういうところも取り入れて、学校でどういうことを学んで、どういうことが非常に役に立っているというような所と看護の仕事というのは漠然としていたけれど、こういうやりがいがあるということを学んでいるというところを説明してもらったり、それからホームページでも戴帽式を終えての感想とか、やはり実体験をさせながら、看護の道を歩みつづけるような動機づけをさせていただいている。漠然と募集要項を配布するだけでなく、説明にいかせていただいて、学校説明会も150名近く来ていただいているので、そういう機会も設けてやっている。説明会の中では、体験というの、実習室で取り入れながらやっているの、とにかく看護の方に関心をもっていただくことを狙いとして進めさせていただいている。

(河瀬委員)

私の経験では高校3年の時に、包帯の巻き方を先生がしてくださった。私は看護師になろうと思っていたのだが、あのような巻き方をしないといけないのなら、とてもじゃないけれども、と迷ったことがある。だから、

そういう説明もだし、やっぱり質問を受けてこんな時はどうなんだという  
ような不安というか、そういうものを持っている人もいると思うので、や  
はり丁寧に、やろう、いってみようという気持ちにさせることが大事では  
ないか。私、今でも思うのですが、あんな包帯の巻き方ができないから無  
理だって、思ったことがあるものですから、やっぱりそういうことが大事  
ではないかと思う。

(菅校長)

貴重なご意見ありがとうございました。

(白須委員)

実際に説明会の時に看護師さんをしておられる方、そういう方の体験談  
というようなことも一緒に含めたら、さっきいわれたように包帯の巻き方  
がむずかしかった、私はちょっとと思ったけれども、私はそれを乗り越え  
てきて、本当にすばらしい今、人と人の関係があるんですよとか、自分の  
仕事に誇りを持っているような体験というのか、そういうの聞かせていた  
だけというのか、聞かせるというのか、そういうことはどうでしょうか。

(菅校長)

受験生にとっては、看護の道を選ぼうかな、どうかなということで、迷っ  
ている学生もたくさんいると思う。だから、教員自身が看護経験を最低5年  
以上は経験したものだという資格になっているので、教員自身のそういう体験  
談とか取り入れています。今現在、臨床から来ていただいて、講義がはじ  
まるとそういうのをどんと入れるのだが、説明会とかそういう機会を設ける  
のも1つの方法かなと思っているので、どんどんPRをさせていただきたい  
と思う。

(河瀬委員)

利用できる場所は利用してください。私も。

(菅校長)

ありがとうございます。またよろしく申し上げます。

(栗本委員)

今回、推薦の方で17人来られて、15人採用ということであるが、実  
際は推薦の定員枠というのは何名くらいの予定だったのか。

(菅校長)

定員の枠はだいたい20名程度ということで、一般は20名、推薦は2  
0名ということにはしているが、受験生の状況によって若干、数は動かさ  
せていただいている。

(谷掛会長)

ほかにありませんか。では事務局からありませんか。

(濱田主幹)

前回の5月の運営市民会議において、質問の中でこちらがしっかり答えることができなかつた分を回答させていただく。

一つは医師の数が非常に増加しているが、どこの大学に依頼したのか、どういうふうにして増やしたのか、という質問があった。確かに医師の数は平成16年から比べて2.8倍とかなり増えている。病院に確認したところ、奈良県立医大や京都府立大学、この2つの病院を中心として、その他に大阪の市立大学や大阪医科大学と連携をとって卒業生をこちらに来ていただけるように顔の見える関係づくり及び日々努力を続けているということであり、他の大学にも関係づくりに努めているということであった。市立奈良病院は新しくなったので、ほぼ最新設備が整っているということで、学生にも来ていただきやすい環境になったということであった。そのほか工夫していることとして、研修体制も力を入れていて、医師だけでなく、看護師、技師の研修費用もかなり潤沢にとっているし、もしも海外の学会に参加したいという申し出があったとしても、その費用も含めて出す準備があるということで、研修に対する充実が医師の確保につながっているのではないかとこのように聞いている。

もう1点、市内と市外の割合について、だいたい8割と回答していたが、25年度が、市内の率が入院は82%、外来は84.5%である。どちらも5年間ほぼ変わっていないが、入院は市内がじわじわ増えている状態である。

また、市民向けの講座ということで、病院公開講座を開催している。これは病院に通っている人だけでなく、市民の方も広く集めた講演会をだいたい年4回、3ヶ月ごとぐらいに実施している。テーマとしては、「胃がんといわれたらどうしますか。」「知って得する心臓病」「乳がんの最新治療の話」というような毎回テーマを決めて、そのドクターに来てお話しいただいている。参加者は平均は30名くらい、腰痛の予防など100名くらい参加があった。そういうように、治療だけでなく、予防の方にも講座を開いて力を入れている。脳卒中教室も3回を1クールとして、年間3回くらい開催していて、医師をはじめ薬剤師、消防局などから説明をしている。以上3点について、回答させていただいた。

(白須委員)

今の講座の件はどのようにして市民に知らせているのか。しみんだよりに書かれているのか。

(濱田主幹)

しみんだよりに掲載されているし、院内のチラシ、張り紙等で啓発している。

その他 質疑なし

○市立奈良病院グランドオープンに関わるDVD視聴

(谷掛会長)

本日のご意見・ご要望については、第20回の市立奈良病院等管理運営協議会に反映させていただきたい。

終 了